

鳥井克之先生に心からの感謝を込めて



鳥井先生は昭和9年6月26日のお生まれで、家業を手伝われながら、昭和29年大阪府立今宮高等学校を卒業され、同年大阪市立大学経済学部に入學、同33年に卒業されました。中国経済に関する卒業論文作成に際して、語学力の必要性を強く感じられ、卒業の年に大阪市立大学文学部に学士入學されました。

そして、昭和35年に大阪市立大学大学院に進まれ、昭和38年同大学院（修士）を修了されました。38年から4年間、大阪市立大学文学部中国学科助手を勤められたあと、昭和42年4月に関西大学文学部中国文学科専任講師として着任されました。

鳥井先生は、本学の中国文学科設立と同時に着任され、今日に至るまでの37年間、中国において今日まで如何に中国語が研究されてきたかという中国語学研究史を、あらゆる視点からとらえた探求をされてこられました。なかでも近代中国語文法学の始祖といえる馬建忠の『馬氏文通』を中心に、それ以前及びそれ以後から現在に至るまでの代表的な文法学者の著作・文法体系・文法概念及びそれらの系譜を基準とした中国語文法研究史の時代区分などについて、数多くの論考を発表してこられ、中国語学の研究・教育の発展に大きな貢献をされてこられました。

そして、これまでの研究の集大成として、『中国文法学説史』（関西大学出版部・1995年）を著されたことにより、1996年関西大学より文学博士の学位を授与されました。また、「中国語教学文法辞典」（東方書店）・「中国語教学文法概論」（関西大学出版部）もまもなく完成され、大いに注目され高く評価されることは言うまでもありません。

また、平成12年4月の本機構創設、特に大学院外国語教育学研究科の設立にあたっては、中心的な任務を担われ、大いに貢献してこられました。

先生はこれまで学内では多くの役職・委員を務めてこられました。学外でも日本中国語学会理事長・奈良県日中友好協会理事長・大阪府日中友好協会附属日中友好学院副委員長などの要職を務められてこられました。現在は、日本選出の世界漢語教学学会理事や奈良県日中友好協会顧問として、引き続き大きな役割を担っておられます。

先生におかれましては、これからは健康に留意されてのんびりとお過ごし下さいますよう心からお願い申し上げます、と申し上げるべきところではありますが、ご退職のあとも、ご無理を申し上げ、引き続き大学院に週1回お越しいただき、院生の指導をお願いすることになっております。申し訳ありませんが、これからもよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

西 川 和 男